

2010年3月期 第3四半期 決算説明資料

2010年 2月 3日
富士ソフト株式会社



目次

- P. 1 ● 10/3月期 第3四半期業績
- P. 2 ◇ 10/3月期 第3四半期 連結業績ハイライト
- P. 3 ◇ 連結セグメント別売上高の主な変動要因
- P. 4 ◇ グループ上場会社売上高の主な変動要因
- P. 5 ◇ 連結販売費及び一般管理費
- P. 6 ◇ 連結営業外損益の主な変動要因
- P. 7 ◇ 連結貸借対照表
- P. 8 ◇ 連結キャッシュ・フロー計算書

- P. 9 ● 10/3月期 今期見通し
- P. 10 ◇ 連結ソフトウェア開発の受注高・受注残
- P. 11 ◇ 10/3月期 通期業績予想
- P. 12 ◇ 新規ビジネスのロードマップ（単体）

- P. 13 ● トピックス



10/3月期 第3四半期業績

10/3月期 第3四半期 連結業績ハイライト

売上高は、製造業分野における受注減少が主因で前年比△14.0%に。

◇組込系ソフトウェア開発は、製造業の開発抑制が急激に進んだこと等からグループ全体で売上が減少し、前年比約3割のマイナスとなりました。

子会社の不動産売却益の計上等により、純利益は30億円の増加。

- ◇受注減少に伴う技術者の稼働率低下と、一部案件の不採算化による損失を引当てたため、売上総利益は前年に比べ55億円減少しました。しかし、販管費を約28億円抑制した結果、営業利益の減少幅は 26億円となっています。
- ◇四半期純利益は、東証コンピュータシステムの不動産売却益の計上と、サイバネットシステムにおいてMATLABの販売代理店契約解消に伴う営業補償金を計上したことなどから、30億円の増加となりました。

(単位:百万円)

	2010年3月期 3Q累計実績	2009年3月期 3Q累計実績	前年差	前年比
売上高	104,557	121,619	△ 17,062	86.0%
営業利益	2,005	4,698	△ 2,693	42.7%
営業利益率	1.9%	3.9%	-1.9%	-
経常利益	2,101	4,256	△ 2,154	49.4%
経常利益率	2.0%	3.5%	-1.5%	-
四半期純利益	2,731	△ 348	3,079	-
四半期純利益率	2.6%	-	-	-



連結セグメント別売上高の主な変動要因

(単位:百万円)

	2010年3月期		2009年3月期		前年差	前年比
	3Q累計実績	構成比	3Q累計実績	構成比		
売上高 合計	104,557	100.0%	121,619	100.0%	△ 17,062	86.0%
ソフトウェア開発事業	82,313	78.7%	98,878	81.3%	△ 16,564	83.2%
組込系ソフトウェア開発	31,841	30.5%	45,156	37.1%	△ 13,315	70.5%
業務系ソフトウェア開発	34,550	33.0%	36,798	30.3%	△ 2,248	93.9%
その他ソフトウェア開発	15,921	15.2%	16,923	13.9%	△ 1,001	94.1%
アウトソーシング事業	19,061	18.2%	20,940	17.2%	△ 1,879	91.0%
その他事業	3,182	3.0%	1,800	1.5%	1,381	176.7%

※当期(2010年3月期)より、「不動産賃貸収入」を「営業外収益」から「その他事業」に計上しています。

セグメント別売上高のポイント

●組込系ソフトウェア開発

各メーカーにおける製品開発抑制や開発案件規模の縮小、値引要求等が進んだため、前年比約3割の落ち込みとなりました。

●その他ソフトウェア開発

セキュリティソリューションは依然好調なもの、SIIに伴う物販の減少やサイバネットでのMATLAB販売終了に伴う影響で、前年を下回りました。

●業務系ソフトウェア開発

流通業では特定顧客の売上が好調だったものの、製造業を初めとする他の分野で受注環境が悪化したため、前年を下回りました。

●アウトソーシング事業

特定顧客のシステム運用減少に伴い、売上が減少しています。

● グループ上場会社売上高の主な変動要因

(単位:百万円)

	2010年3月期	2009年3月期		
	3Q累計実績	3Q累計実績	前年差	前年比
富士ソフト(東証一部)	50,599	60,382	△ 9,783	83.8%
サイバネットシステム(東証一部)	10,907	14,058	△ 3,150	77.6%
ヴァンキュラム ジャパン(JASDAQ)	6,907	10,043	△ 3,136	68.8%
サイバーコム(JASDAQ)	4,643	6,299	△ 1,656	73.7%

グループ上場会社売上高のポイント

● サイバネットシステム

新規ライセンス販売は、主要顧客の予算執行の先送りや凍結といった状況が続いており、さらに厳しい結果となりました。
保守契約の更新は、第2四半期以降にライセンス数の見直しや解約が発生しています。

● サイバーコム

引き続き、組込系ソフトウェア開発における発注の規模縮小、時期延期、凍結のため、売上高が減少しています。

● ヴァンキュラム ジャパン

前年計上した大型案件(大手流通小売業様向けIT統合案件)による売上増加の反動のほか、消費低迷に伴う流通系顧客の投資延期、凍結、値下げ要求などもあり、売上が減少しています。

連結販売費及び一般管理費

(単位:百万円)

	2010年3月期 3Q累計実績	2009年3月期 3Q累計実績	前年差	前年比
販売費及び 一般管理費	21,416	24,240	△ 2,824	88.3%
人件費	12,463	13,804	△ 1,340	90.3%
【主な減少科目】				
給与・賞与	9,091	10,699	△ 1,607 ①	85.0%
経費	8,952	10,436	△ 1,483	85.8%
【主な減少科目】				
採用研修費・教育訓練費	370	780	△ 410 ②	47.5%
広告宣伝費	332	690	△ 358 ③	48.1%
事務委託費	1,414	1,693	△ 278 ④	83.5%
旅費交通費	440	647	△ 206 ⑤	68.1%
減価償却費	1,128	1,239	△ 110 ⑥	91.1%

主な減少科目の要因

- ①給与・賞与 (前年差△1,607百万円)
残業の削減、賞与支給基準の引き下げ等による減少
- ②採用研修費・教育訓練費 (前年差△410百万円)
新卒・中途採用数の抑制と、研修の効率化
- ③広告宣伝費 (前年差△358百万円)
広告宣伝活動の縮小
- ④事務委託費 (前年差△278百万円)
業務の見直しによる圧縮
- ⑤旅費交通費 (前年差△206百万円)
社内イベントの見直しに伴う交通費の削減
- ⑥減価償却費 (前年差△110百万円)
秋葉原ビル関連等の償却額の減少

連結営業外損益の主な変動要因

(単位:百万円)

	2010年3月期 3Q累計実績	2009年3月期 3Q累計実績	前年差	前年比
営業利益	2,005	4,698	△ 2,693	42.7%
営業利益率	1.9%	3.9%	-1.9%	-
営業外収益	953	1,704	△ 750 ①	56.0%
営業外費用	857	2,146	△ 1,289 ②	39.9%
経常利益	2,101	4,256	△ 2,154	49.4%
経常利益率	2.0%	3.5%	-1.5%	-
特別利益	2,786	-	2,786 ③	-
特別損失	296	1,925	△ 1,628 ④	15.4%
税金等調整前四半期純利益	4,591	2,330	2,261	197.0%
法人税等	835	1,969	△ 1,134	42.4%
少数株主利益	1,025	709	315	144.6%
四半期純利益	2,731	△ 348	3,079	-
四半期純利益率	2.6%	-	-	-

営業利益以下のポイント

- ① 営業外収益 (前年差△750百万円)
不動産賃貸収入の売上げへ移行に伴う減少
- ② 営業外費用 (前年差△1,289百万円)
不動産賃貸原価の売上原価へ移行にともなう減少
- ③ 特別利益 (前年差+2,786百万円)
東証コンピュータシステムの不動産の固定資産の売却 (+1,651百万円)と、サイバネットシステムの営業補償金の計上 (+800百万円)
- ④ 特別損失 (前年差△1,628百万円)
・前年度に投資有価証券の評価損を計上 (△1,457百万円)したことによる反動
・固定資産除却損、関連会社整理損等の計上 (当期△296百万円)



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2010年3月期 3Q期末	2009年3月期 期末	増減
流動資産	56,193	68,149	△ 11,955
現金及び預金	16,456	25,354	△ 8,897 ①
受取手形及び売掛金	24,963	30,261	△ 5,298 ②
仕掛品	5,565	3,027	2,537
固定資産	113,028	109,646	3,381
有形固定資産	78,299	79,138	△ 838
無形固定資産	12,826	10,100	2,726 ③
投資その他の資産	21,901	20,408	1,493
資産合計	169,222	177,795	△ 8,573
流動負債	57,696	83,749	△ 26,053
買掛金	6,571	9,946	△ 3,374 ②
短期借入金	32,633	55,315	△ 22,681 ④
1年内返済予定の長期借入金	6,003	1,686	4,316 ④
未払費用	4,484	9,827	△ 5,342 ②
固定負債	29,660	15,809	13,851
長期借入金	20,638	7,839	12,798 ④
負債合計	87,357	99,559	△ 12,201
資本金	26,200	26,200	-
資本剰余金	28,438	28,438	-
利益剰余金	33,619	31,525	2,093
その他有価証券評価差額金	△ 25	△ 890	864
純資産合計	81,864	78,236	3,628
負債純資産合計	169,222	177,795	△ 8,573

貸借対照表のポイント

- ①現金及び預金(前期末差△8,897百万円)
手元流動性の圧縮
- ②売掛金・買掛金・未払費用
受注の減少に伴う減少
- ③無形固定資産(前期末差+2,726百万円)
サイバネットシステムとヴィンキュラム ジャパンの新規会社連結に伴うのれんの計上
- ④短期・長期借入金
長短比率の改善
借入金全体の圧縮(△5,567百万円)



● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2010年3月期 3Q累計実績	2009年3月期 3Q累計実績	前年差
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,834	1,927	△ 92
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,720	△ 7,484	3,763
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,036	△ 720	△ 6,315
現金及び現金同等物の増減額	△ 8,993	△ 6,292	△ 2,701
現金及び現金同等物の期首残高	25,465	21,667	3,798
現金及び現金同等物の期末残高	16,472	15,375	1,096

キャッシュ・フローのポイント

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
 - ・営業利益等が減少しておりますが、税金支払の減少もあり、昨年度と同程度となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - ・有価証券、投資有価証券の取得による支出の減少
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
 - ・借入金の圧縮による支出の増加
 - ・自己株式の取得による支出の減少



10/3月期 通期見通し

連結ソフトウェア開発の受注高・受注残

(単位:百万円)

	2010年3月期 3Q累計実績							
	期首受注残	前年比	受注高	前年比	売上高	前年比	期末受注残	前年比
ソフトウェア開発事業 合計	24,649	89.9%	82,090	83.2%	82,313	83.2%	24,426	89.7%
組込系ソフトウェア開発	9,368	77.2%	31,299	71.5%	31,841	70.5%	8,826	82.3%
業務系ソフトウェア開発	10,578	104.3%	35,366	91.2%	34,550	93.9%	11,394	94.0%
その他ソフトウェア開発	4,702	91.5%	15,424	95.3%	15,921	94.1%	4,204	95.7%

受注高・受注残の状況

●組込系ソフトウェア開発

メーカーの開発量減少により、通信制御系、その他組込系ともに受注高が減少していますが、その下降に底打ち感が見られます。

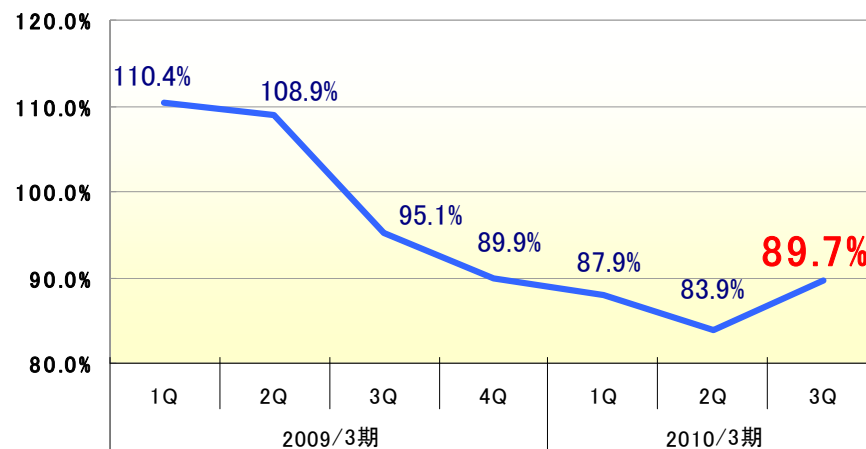
●業務系ソフトウェア開発

流通業(前年比129.9%)は好調だったものの、金融業(前年比86.8%)、製造業(前年比53.6%)を中心に、受注高が減少しています。また、受注残においても金融業、製造業が前年を下回っています。

●その他ソフトウェア開発

SIに伴う物販の減少やMATLABの販売終了に伴い、受注高、受注残ともに前年を下回っています。

■ 連結ソフトウェア開発「受注残」前年比の推移



下降に底打ち感が出てきている!



10/3月期 通期業績予想 (2009年10月30日発表数値)

(単位:百万円)

	連結			単体		
		前年差	前年比		前年差	前年比
売上高	145,000	△ 20,081	87.8%	73,000	△ 9,153	88.9%
売上原価	111,500	△ 14,228	88.7%	56,200	△ 6,035	90.3%
売上原価率	76.9%			77.0%		
売上総利益	33,500	△ 5,853	85.1%	16,800	△ 3,117	84.3%
売上総利益率	23.1%			23.0%		
販売費及び一般管理費	29,900	△ 2,140	93.3%	16,450	△ 1,944	89.4%
販管费率	20.6%			22.5%		
営業利益	3,600	△ 3,712	49.2%	350	△ 1,172	23.0%
営業利益率	2.5%			0.5%		
経常利益	3,600	△ 2,996	54.6%	350	△ 2,711	11.4%
経常利益率	2.5%			0.5%		
当期純利益	3,700	2,816	418.8%	400	259	283.7%
当期純利益率	2.6%			0.5%		

通期業績予想のポイント

● 第4四半期見込みについて (決算補足資料もあわせてご参考ください)

当第4四半期(1月～3月)の連結業績は、それぞれ前年比で売上高93.1%、営業利益61.0%、当期純利益78.6%程度を見込んでおり、昨年10月30日に発表した通期業績予想に変更はありません。



新規ビジネスのロードマップ(単体)

※・・・赤字の案件は予定です。



今まで研究開発投資を行っていた案件が、
この4Q、2011年3月期にサービスイン予定!
2011年3月期下期以降の業績寄与を目指す!



トピックス

トピックス

ヒューマノイド・ロボット『PALRO(パルロ)』販売開始



palro.

●幅広い販売ターゲットを想定し、低価格を実現

3月15日より、組み込みソフトウェア開発で長年培った技術と知能化技術を融合させて開発した小型ヒューマノイド・ロボット『PALRO®』を発売します。

『PALRO®』は、当社のソフトウェア開発技術を用いることで高機能且つ高い拡張性を持ちながらも、汎用部品を大胆に採用することでコンシューマでも購入できる「低価格」を実現しています。

需要の高い教育機関より先行販売を行い、2010年度中に一般コンシューマ向けに販売を開始する予定です。

また今後においては、PALROで活かされているロボットテクノロジー(RT)を様々な事業分野に展開・活用する予定です。

名称	PALRO(パルロ)
サイズ	身長:約39.8cm 体重:1.6Kg
コンセプト	パーソナル・ホーム・コンシェルジュ
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・顔認識、音声／音種認識、テキスト発話などによる対話機能 ・歩行、起上り、受身などの運動機能 ・現在地認識、地図自動生成、経路検索などによる移動機能 ・その他、静止画撮影、メール転送、家電制御など
ターゲットセグメント	主にロボット愛好者・ロボットマニア、シニア層、一般家庭、教育機関などを想定
販売目標	初年度で1,000体
その他	教育機関から先行販売 (教育機関向け販売価格:税込 298,000円)

トピックス

マイクロソフト関連ビジネス専門組織の設置

お客様への提案力を高めるため、マイクロソフト関連ソリューションサービスを行う専門部署を1月1日付で設置しました。

当社が現在推進している「クラウドコンピューティング戦略」の一環としてAzure(アジュール)のコンサルティング営業や開発を行うほか、マイクロソフト社製品のマイグレーションサービスや、その他同社製品に関連するコンサルティング・開発・サービスを行う専門部署となります。

2/26には大阪でマイクロソフト関連サービスのセミナーを開催するなど、専門組織ならではの積極的な営業活動を行っていきます。

台北オフィスを支店化

台湾・台北市に、当社初となる海外拠点「台北オフィス(日商富士軟體科技股份有限公司 台北辦事處)」を昨年9月1日に開設し、現在、現地企業と組込系ソフトウェアビジネスのアライアンスを行っておりますが、今後の事業拡大を見通して今年3月に支店への昇格を予定しています。来期以降、台北以外の地域においても海外ビジネスの展開を推進していきます。



台北オフィスが入居するビルの外観とオフィス内観



FUJISOFT

New answer is here

※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。